

柳川市立小中学校施設の耐震診断等の結果について

柳川市立小中学校の校舎等の耐震診断等の結果について、地震防災対策特別措置法第6条の2第2項の規定により公表します。

公表の対象となるのは、耐震化が求められる旧耐震基準に基づいて建築された昭和56年以前の建物です。新耐震基準で建築された昭和57年以降の建物は、耐震診断等の必要はありません。

(小学校)

	種別	建築年	構造	面積	優先度ランク	Is値	備考
柳河小学校	校舎	昭和39	R3	818	1	0.72	平成20年度耐震補強済
	校舎	昭和40	R3	618	1		
	校舎	昭和42	R3	962	1		
	屋体	昭和46	R1	565	-	1.27	平成14年度耐震補強済
昭代第一小学校	校舎	昭和50	R2	877	5	0.98	耐震補強不要
	校舎	昭和56	R2	296	5	0.98	
	校舎	昭和56	R2	960	5	0.99	
	屋体	昭和54	R1	626	5	0.86	
昭代第二小学校	校舎	昭和53	R2	951	5	0.90	耐震補強不要
	校舎	昭和55	R3	1,233	2	0.84	
	屋体	昭和54	R1	626	5	1.20	
蒲池小学校	校舎	昭和52	R3	2,159	4	1.00	耐震補強不要
	校舎	昭和54	R2	1,400	5	1.23	
中島小学校	校舎	昭和51	R4	1,701	2	0.70	平成22年度耐震補強済
	校舎	昭和52	R4	2,338	3	0.72	
大和小学校	校舎	昭和56	R4	2,951	2	0.71	平成22年度耐震補強済
豊原小学校	校舎	昭和49	R3	1,479	3	0.75	平成22年度耐震補強済
	校舎	昭和49	R2	194	4	0.83	耐震補強不要
	校舎	昭和49	R2	677	5	0.83	
藤吉小学校	校舎	昭和53	R3	1,080	-	0.74	平成18年度耐震補強済
	校舎	昭和55	R2	1,030	-	0.98	耐震補強不要
矢ヶ部小学校	校舎	昭和52	R2	898	4	0.78	耐震補強不要
	校舎	昭和56	R3	909	3	0.70	
	屋体	昭和56	R2	577	4	1.48	平成22年度耐震補強済
二ツ河小学校	校舎	昭和52	R2	354	4	0.88	耐震補強不要
	校舎	昭和53	R2	450	5	0.88	
垂見小学校	校舎	昭和53	R2	825	4	0.82	耐震補強不要
中山小学校	校舎	昭和41	R2	524	2		耐力度調査済
	校舎	昭和54	R3	852	3	0.71	平成22年度耐震補強済
	屋体	昭和54	S2	686	4	0.74	

(中学校)

	種別	建築年	構造	面積	優先度ランク	Is値	備考
柳城中学校	校舎	昭和48	R3	1,459	-	0.74	平成15年度耐震補強済
	校舎	昭和53	R3	1,459	-	0.93	耐震補強不要
	校舎	昭和53	R3	270	-	0.74	
昭代中学校	校舎	昭和46	R1	300	-	0.88	平成11年度耐震補強済
	校舎	昭和51	R2	972	4	0.84	耐震補強不要
	校舎	昭和54	R3	1,967	3	0.72	平成22年度耐震補強済
蒲池中学校	校舎	昭和46	R3	694	-	0.91	平成10年度耐震補強済
	校舎	昭和44	R3	674	-	0.91	
	校舎	昭和56	R3	996	-	0.70	耐震補強不要
	屋体	昭和51	R1	754	5	0.87	耐震補強不要
三橋中学校	校舎	昭和47	R3	1,254	4	0.72	平成22年度耐震補強済
	校舎	昭和47	R3	1,338	4	0.72	
	校舎	昭和47	R3	365	3	0.71	
	校舎	昭和47	R3	379	3	0.71	
	校舎	昭和48	R3	2,084	4	0.71	
	屋体	昭和49	R3	1,543	3	0.70	

【語句の説明】

■旧耐震基準と新耐震基準

建物の安全性を確保するため建築基準法に耐震基準が定められています。昭和56年に建築基準法が改正され、耐震基準が引き上げられました。新しい基準を「新耐震基準」、改正前の基準を「旧耐震基準」と呼びます。

■構造

構造欄のRは鉄筋コンクリート造、Sは鉄骨造を、また、数字(1~4)は建物の階数を表します。

例

R3

鉄筋コンクリート造3階建

■優先度ランク

平成18年度に実施した耐震化優先度調査(どの建物から耐震診断または耐力度調査を行うかの優先度を検討するための調査)の結果を5段階の優先度ランクで表します。

優先度ランク	1	2	3	4	5
	高い	←	優先度	→	低い

- 耐震診断 : 耐震補強を行う場合の事前調査
- 耐力度調査 : 改築(老朽)を行う場合の事前調査

■Is値

耐震診断の結果を数値化したもので、Is値に対応する耐震性能を下表のように判断します。値が大きいほど耐震性能が高いことを表します。文部科学省では安全の目安を0.7以上としています。

Is値	耐震性能	対応
0.3未満	大地震時に倒壊・崩壊の危険性が高い	改築または耐震補強が必要
0.3以上0.7未満	大地震時に倒壊・崩壊の危険性がある	耐震補強が必要
0.7以上	大地震時に倒壊・崩壊の危険性が低い	耐震補強の必要なし